

未来のために、みんなで考えていこう



子育てへの“パパチカラ”が発揮できない？

～子どもと過ごせる時間、それはとても貴重な宝物～

平成28年度の市民アンケートでは、男性の育休取得が進んでいない原因として、

- ◆職場内の取りづらい雰囲気
- ◆上司・同僚・部下への遠慮
- ◆父親は仕事を優先すべき

などの回答が多く、男性の育児参加には、いまだ大きな壁が存在していることが分かりました。

『イクメンで行こう！』の著者として知られる渥美由喜さんは、かつて本市で、「一日も早くこの“イクメン”という言葉が無くなることを願っています。」と熱く語られましたが、一人ひとりが固定的な性別役割分担意識を変え、社会全体で子育てを応援し、男性の育児を当然のこととして捉えていくことが大切なのではないでしょうか。



「家庭の中の人権
～生まれ来る子へ～」
(2013年作品)

“生まれ来る子”たちへ偏見のない社会を

～偏見をなくし、まずは正しく理解することから～

厚東校区の人権教育推進委員協議会では、平成29～30年度の2年にわたり、男女共同参画（家庭における人権）をテーマに人権学習を進めてきました。

啓発用のDVD教材を視聴した後、登場人物の言動について、男女共同参画の視点から意見交換を行い、現在も問題となっている、“マタニティ・ハラスメント”や男

性の家事・育児参加、女性の就業環境、性別役割分担意識、DVをはじめとする男女間の暴力などについて知識を深めました。

先進国でありながら、ジェンダー（社会的性別）の平等が進んでいない我が国の現状を再認識し、どうすれば子どもたちに明るい未来を残すことができるのか、真剣に学び合いました。



外見からは分かりづらいDV加害者

～「宇部市配偶者暴力相談支援センター」へご相談を～

加害者が暴力をふるう理由はいろいろあると思われますが、その背景には社会における『男性上位』の考え方があると言われています。

加害者の多くは、被害者以外（職場や友人など）との人間関係では暴力をふるっていません。

加害者は、怒りを抑えることができないわけではなく、「時と場所と

相手を意図的に選んで暴力をふるっている」のです。

また、加害者に一定のタイプはなく、年齢、学歴、職種、年収などにも関係がないと言われています。

人当たりが良く、社会的信用もあり、周囲の人からは、「家で暴力をふるっているなんて想像できない。」と思われる人もいます。

相談窓口はこちら

専用 電話番号 33-4649

日時 月～金 9～16時

費用 無料

※祝日、年末年始は除きます。
男性相談は予約が必要です。